



通巻 No.255 2025年1月26日

教会報ほんじょ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
<https://www.catholic-honjyo-church.org>

INDEX

- 「聖年二か月目」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他

「聖年二か月目」

主任司祭 パウロ 豊島 治

二月のご挨拶を申し上げます

『皆さん、ナザレの聖家族の愛の交わりの中で育まれた救い主イエス・キリストの受肉の神秘は、わたしたちにとって、深い喜びと確かな希望のよりどころです。すべての教会との交わりの中で、人となられたことばと、「救いの錨」である十字架のしるしのうちに、ご自身を現わされる御父の愛を祝うこのとき、わたしたちは東京教区のために、聖年の荘厳な開幕を執り行います。この式は、わたしたちにとって、恵みとつくしみの豊かな体験への序曲です。特にこの戦争と混乱の時代にあって、わたしたちは自らの内にある希望の理由を尋ねる人々に、いつでも答える用意ができています。わたしたちの平和と希望であるキリストが、この恵みと慰めの年の旅とともに歩んでくださいますように。今日、わたしたちのうちに、またわたしたちとともに、このわざを始められた聖霊が、キリスト・イエスの日に完成へと導いてくださいますように。』

聖家族の日の午後カテドラルでこのように大司教様が祈りをささげ、東京教区での2025通常聖年が開幕しました。私はタイミングがかわらず、開始時間に遅刻し聖年の扉を開ける式あたりに到着したので、写真撮影しかできませんでしたが、特別な年がきたという意識はもてました。聖年のモットーとなっている『希望は欺かない』（ローマ5・5）は、私たちが希望の巡礼者となって、混んとした世界各地に希望のメッセージを届ける人となるよう呼びかけています。とくに教皇さまが各所でよびかけられているとおり、慈しみ・ゆるしに満ち、全世界のすべての居場所、そしてともに歩む教会（シノダリティ）の実現のため回心してゆこうという式文です。



「扉を開ける式の様子」

先日、「霊における会話」の識別を福音講座でお話しました。別の場から従来用いられた「分かち合い」とどう異なるのかという話がありましたが、指導する方にもありますが、私が教わった内容を記します。

「霊における会話」が分かち合いとなる点は互いに傾聴しあうところは同じですが、その中に聖霊の導きを聞き取ることに主眼が置かれています。分かち合いは基本的に結論を出すものではありませんが、霊における会話は饒舌な人も、そうでない人も、押しの強い人も、引っ込み思案の人も、全員が等しく発言の時間を与えられ、そして、そこに聖霊の「声」を識別するのです。そのため話し・聞くこと同様、「祈る」とことが最も重要なこととなります。数人のはなし・ステップを終わるごとに「祈る」ことによって聖霊に耳をかたむけることが大切です。こうして単なるききっぱなしや意見調整から合意を得たりするのではなく、意見の相違があっても聖霊がいま私たちをどこへ導こうとしているのかを識別することが大切なのです。

先日中東で捕虜にされ生きて解放された人は希望を捨てなかったそうです。決して欺かれない絶対の信頼と安心感が変わることの多い世界への大きな肯定的な力となるでしょう。